

講義：学校経営計画の開発実践

令和4年1月12日教職大学院学校管理職養成コースM1対象の講義「学校経営計画の開発実践」に、岐阜県教育委員会教職員課長 中村 有希様をゲストティーチャーにお招きし、「人事管理の面から見た管理職の役割」をテーマにご講義いただきました。

本務ご多忙の中、現在の学校管理職に求められるものを、県教育委員会などのお立場から、ご教示いただきたいとの本学の希望で実現した講義です。

講義では、最初に法規的視点からみた管理職の職務や、岐阜県教員評価指標より校長と教頭の職責の違いを、院生との質疑応答を交えながら整理いただきました。その後、マネージャーとしての人的管理の重要性、不祥事防止の観点やメンタルヘルスの観点から教員の教育者と公務員としての二面性などを、ご自身のご経験と、教育学、経営学、教育行政学などの知見を踏まえた俯瞰的な視点とを往還しながら、先進的で高度な内容のご講義をいただきました。

また、最後に、学校管理職が、自分の言葉で物事を伝える重要性をご教示いただくなど、まさに、教育委員会と教職大学院の連携を具体化した、教職大学院学校管理職養成コースの醍醐味といえる講義となりました。



講義の様子

以下に、受講した院生の感想を抜粋します。

- ・管理職になるという責任の重さを改めて考えることができ、身の引き締まる思いでした。管理職として、職員に対しての危機感や職員を育成する意識を忘れず、最前線にいる教職員が気持ちよく働ける環境をマネジメントすることが管理職の最大の使命であると感じました。
- ・常に学校現場で活躍する教員皆がプラス方向に向かうために、どう物事に対峙していくか常に考えてらっしゃることが伝わり、今日はその「愛情」をたくさんいただきました。
- ・一度不祥事が起きれば、公務員として問われる責任と同時にそれまで積み上げてきたものがあっという間に崩れ去る管理職としての責任、さらには予見能力と人事管理能力が問われることを痛感しました。